

小平市立小平第四中学校「学校だより」



四季 ~四中の季節~

第1号(4月)

『正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む』

令和7年4月7日発行

校長 関 勝 志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

令和7年度 始業式 「心からの挨拶」

校長 関 勝 志

令和7年度がスタートしました。同時に創立60周年を迎えました。新たな学校教育目標のもと、記念すべき第一歩を踏み出します。

小平四中の目標は、
「正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み
ふるさとと共に歩む」
です。

「正しく学ぶ」とは、基礎・基本を身に付けること。教えてもらうのではなく、自ら学ぶこと。あふれる情報を正しく判断し、活用すること。

「自他を尊重する」とは、自分の考えをもって行動すること。他者を思いやり、感謝すること。生命や人権を大切にすること。

「たくましく生きる力を育む」とは、最後までやり抜く力をつけること。困難に耐え乗り越える強い心を育てること。健康で丈夫な体をつくること。

「ふるさとと共に歩む」とは、愛校心を培うこと。地域とのつながりを大切にし、貢献すること。自己実現に向かって進むこと。

この目標をしっかりと心に刻んでほしいと思います。

生徒たちが毎日の登下校で通っている正門には、「小平市立小平第四中学校」の文字が刻まれています。あの門標の文字は、湯川秀樹博士が書いたものです。湯川博士は、日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した偉大な科学者です。戦後の日本の物理学研究を牽引しました。

「一日生きるとは、一歩進むことでありたい」

これは湯川博士の言葉です。言葉の本当の意味は湯川博士にしか分かりませんが、思うに、一日一日を大切に生きるということ。たとえ小さな一歩でもそれを積み重ねることで目標や夢に近づけるということ。一歩が進めない日があっても進むことをあきらめないということ。そんな意味が感じ取れます。

きっと、2・3年生は、これから始まる新しい生活への期待とともに、学年が一つ上がったことによる自覚や意欲が芽生えていることでしょう。その気持ちを大切に、一日一歩を進んでほしいと思います。

2年生は中堅学年として、3年生を支え、1年生の見本になるという大切なポジションです。もう先生の指示がなくても自分たちで考え、判断し、行動できなければならない学年です。

3年生はついに最上級生となりました。小平四中の顔です。3年生の姿がそのまま小平四中の姿と言っても過言ではありません。それだけに、大きな期待と責任を背負っています。

今年度どうしても成し遂げたいこと、生徒たちと先生たちに頑張ってもらいたいと考えていることがあります。それは、学校生活に挨拶があふれることです。これは校長の力だけではどうにもなりません。

挨拶には、礼儀やマナーなど、形として身に付けなければならない挨拶もありますが、本当に大切なのは、尊重や感謝、思いやりの気持ちが自然に挨拶となって表れることだと思います。

ときおり、朝の登校時や部活の下校時に、校長室に向かって「おはようございます」「さようなら」と声をかけてくれる人たちがいます。とてもうれしいです。それは、その人の気持ちが感じられるからです。

「心からの挨拶」です。

決まった場面で、決まった挨拶をすることは大切なことですが、いつでもどこでも、相手に気持ちを伝える挨拶「心からの挨拶」が自然にできるようになることを願っています。それは「小平四中の伝統」として、「四中生の誇り」として、これから先ずっと受け継がれていくものだと思います。

教職員はもとより、家庭や地域、関係機関が一丸となり、「チーム四中」として学校経営を進めてまいります。保護者の皆様、そして地域の皆様には、これから一年間お世話になることがたくさんあると思いますが、温かいご支援をよろしくお願いいたします。



